

4. 総括研究報告

課題 4

腎移植患者の足・下肢病の状態、 重症化状態への進行状態の実態比較

近年増加している糖尿病の代表的な合併症である血管病変は、心筋梗塞や脳梗塞、さらには重症下肢虚血など、患者の生命を脅かす合併症となり得る。糖尿病によって末期腎不全から透析導入となり、その後も末期腎不全の種々の合併症により動脈硬化が進展する。他方、もう一つの腎代替療法である腎移植を受けると透析療法より血管病変の進行は遅くなり、その結果透析療法より患者の生命予後を改善するとの欧米のデータがある。しかし、本邦の透析療法の成績は世界で群を抜くものである一方で、未だ透析と腎移植を比較したデータはなく、同様に血管病変の一型である足病の重症化予防として、腎移植の有用性を検討した研究はない。

そこでわれわれは、糖尿病性末期腎不全患者において、足病とその治療介入の程度を生体腎移植症例と透析症例の 2 群間にて多施設共同・後ろ向き観察研究にて比較検討し、足病重症化予防としての腎移植の有用性を検討した。透析治療と腎移植の比較については既に研究され、医療経済的に国の負担軽減につながることは証明されている。しかしもし本研究で足病についても腎移植の優位性が証明されれば、医療経済的にも、国民の QOL の面においても極めてその意義は大きい。

1. 糖尿病性腎症における腎移植と透析療法の生命予後比較としては、欧米では、移植によって透析での死亡リスクを 47%減らせるとする報告など、腎移植は透析療法と比較し、良好な生命予後と QOL の改善をもたらすことが知られていた。今回の本研究で、本邦ならびに世界でも初めて、糖尿病患者において腎移植は透析療法と比較し、心疾患・脳血管疾患など透析による動脈硬化による死亡リスクを減らすメリットがあることが証明された。しかもこれまでの欧米の報告は、移植待機期間中に移植を受けた症例と移植を受けられず透析を余儀なくされた症例の比較検討の結果であり、患者背景は統一されていなかった。しかし本研究はプロペンシティブスコアにて患者背景を統一させ、一定期間における腎移植の介入が透析を継続することより動脈硬化による死亡リスクを減らすことを証明したものであり、腎移植の動脈硬化による死亡リスク減少という重症化予防効果を示した世界初の報告である。

2. 腎移植と透析療法の足病に対する予後比較としては、日本で足病に対する腎移植の効果を示した研究は皆無である。今回の研究では移植群と透析群の比較では、足血行再建率、切断率、治療（再建+切断）率、いずれも差はなかった。

3. 末期腎不全患者に対する腎代替療法としての献腎移植推進の必要性としては、

2018年の我が国における腎移植実績報告によると、2018年1年間の生体腎移植総数は前年比で129例の増加であったが、献腎移植は前年比で16例減少していた。本研究班として改めて、医療経済的にも、国民のQOLの面においても早急な献腎移植推進、さらにはそのための臓器提供推進を行うべきであることが判明した。